

特集 I

「令和元年度 J A 全農福島 農福連携セミナー」開催

1月24日 J A 福島ビルにおいて、県内福祉事業所や行政・J A 担当者約120名が参加し、「J A 全農福島 農福連携セミナー」が開催されました。本セミナーは農業の労働力不足解決のため今回、初めて開催しました。労働力支援対策の一環として、農福連携をより一層活発に推し進めるため、農業側と福祉側の相互理解の促進と取組の普及拡大を目指します。

J A 全農福島 猪股孝二 県本部長からは、「本日のセミナーの取り組み事例を参考に、福祉事業者は農作業への参画をすすめるきっかけにして欲しい。」との挨拶がありました。「こ

ころん」の熊田芳江常務理事から「福祉事業者から見た農福連携について」と題して情勢と自身の福祉事業所における取り組み事例を交えた報告をいただきました。障害者総合支援法により就労系の障害福祉サービスは整理されたものの、依然として障がい者の平均工賃（給料）は低い状況です。その中で農福連携に取り組む、障害の特性を生かした作業を行うことで生産性・工賃の向上を図ることが非常に重要であると話されました。

花見寿保氏の3名の方から農福連携に取り組んだ内容を説明いただき、その後に実際に作業を行った福祉事業所の職員の方からも感想を發表していただきました。特に中田社長からは「地域の農地が担い手に集積しつつあり労働力が不足している中、福祉事業所の利用者（障害者）の方達は勤務態度が非常にまじめで一生涯命取り組んでくれた。今後とも作業を依頼したい。」と話があり、それに対して福祉事業所の職員の方も「利用者が農作業を行うときは嬉しそうに、やりがいを持って働いた。今後とも作業を行いたい。」と応えて、農業側・福祉側がお互いメリットを

最後に J A 全農福島 営農企画部 T A C 担い手推進課 宗形義洋課長代理が「全農福島の農福連携の取り組み」と題し、今後は農業側の窓口として J A と一緒にやってさらなる事例の積み上げと取り組みに対する周知を進めていきたいと話しました。



挨拶する猪股県本部長



講演をする熊田常務理事



今後の取り組みについて説明する宗形課長代理



事例発表する中田社長



熱心に発表を聞く参加者



農福連携に取り組んだ感想を發表する福祉事業所職員の皆さん

全農福島は今後も農福連携を通じて農業生産現場の課題解決に取り組んでまいります。

特集 II

令和元年度 カントリーエレベーター運営管理・環境整備コンクール 最優秀賞は、J A ぶくしま未来 石神カントリーエレベーター

県内18カントリーエレベーター（C E）が参加した、J A 福島カントリーエレベーター連絡協議会主催「令和元年度 C E 運営管理・環境整備コンクール」の一次審査を12月3日から10日まで実施し、上位7 C E を対象に1月16日、17日の2日間で本審査を行いました。

審査は、46項目220点満点で行い、内訳は、運営管理体制が29項目142点満点、環境整備が12項目60点満点、その他が5項目18点満点、上位4 C E が216点の同点のため、運営管理V環境整備V C E 稼働率により審査し、順位を決定しました。入賞5 C E は、2点の僅差で、高得点での競い合いとなりました。

表彰式は、令和2年1月29日に郡山市で行い、施設管理者、運転技術者ら29名が参加し、5 C E を表彰しました。

最優秀賞

J A ぶくしま未来 石神カントリーエレベーター

優秀賞

J A 福島さくら いわきカントリーエレベーター

J A 会津よつば 高田カントリーエレベーター

優良賞

J A 福島さくら 郡山カントリーエレベーター

J A 会津よつば 坂下カントリーエレベーター

表彰式終了後、カントリーエレベーター運転技術者等研修会を開催し、公益財団法人 農業倉庫基金 指導部次長 朝待貴司氏による「C E における自主的衛生管理と事故防止対策」の講演で、農業倉庫・C E の自主的な衛生管理・マニュアルの作成活用方法等やC E 間の情報交換を行いました。



最優秀賞 J A ぶくしま未来 石神カントリーエレベーター



入賞した5カントリーエレベーター



審査班による外部審査



審査班による内部審査